

仙台市青葉少年少女発明クラブ (青葉区)



ロボット製作などを通して豊かな人間性を養ったかまたち

ノーベル賞 目指すぞ

仙台市青葉少年少女発明クラブ 2006年4月設立。メンバーは仙台市と周辺の小学4～6年32人。大学教員らが指導し毎月第3土曜日、仙台市民会館などで活動。新年度のクラブ員を募集している。入会金1000円。月会費500円。年間教材費5000円。連絡先はクラブ事務局022(214)1111。

指導員の一人、東北学院大大学院生尾形大さん(三〇)は「理科離れといわれるが、適切な教材があれば子どもたちは関心を持つ。これからも科学への興味を育てていきたい」と優しく見守っている。

丹野真衣さん(二〇)は「名取閉上小四年は「ハンダ付けは苦手」と言いながらも楽しそう。木島詩央さん(二〇)、東長町小四年「実験はワクワクする」と目を輝かす。

初級の渡辺将駿君(二〇)は「ロボットが思い通り動いてくれるとうれしい」、同じく神林甲樹君(二〇)宮城野中級の川添優樹君(二〇)上杉山通小六年は「ロボットが思い通り動いてくれるとうれしい」と、大きき。

「やった、ちゃんと動いたよ」。自分たちのプログラム通りに手足を動かすロボットを見て、歓声を上げる子どもたち。目的に向かってみんな一心に頑張る姿が、ほほ笑ましい。「よろしく、お願いします」。まずは大きな声で指導員にあいさつ。ものづくりに通じて創造力を養い、心身のバランスが取れた社会人を育てたい。そんな設

「よし、お話しします」。まずは大きな声で指導員にあいさつ。ものづくりに通じて創造力を養い、心身のバランスが取れた社会人を育てたい。そんな設

立理念から、礼儀やチームワークを重視している。「技術は日進月歩だが、ものの考え方の基本は、子ども時代に身に付けなければ」と、会長の秦従道さん(六二)会社経営、青葉区は強調する。毎年四月の開講から、年間を通してロボットキットの製作やプログラミングに取り組むのが特徴。入会初年度は初級、二年目は中級、三年目が上級と分けられており、全員の目標は三月の「ロボコン大会」だ。上級の萱場隆君(三二)通町小六年は「機械が好きなので入った。将来はできれば、理科系に進みたい」と三年間を振り返る。